

出所者を支える教育伝授

民間向けに道内初の講座

受刑者や出所者の再犯防止を図る「心のスポンジプログラム」の民間向け「スタートアップ講座」が、帯広経済センタービルで開かれた。同プログラムの開発者で、更生保護に取り組み一般社団法人「ヒューマンハーバーそんたく塾」(福岡県、副島勲代表理事)の原田公裕塾長が、生きづらさを感じている人の第二のスタートのための教育指導などについて講演した。同プログラムは九州を中

心とした刑務所や少年院、企業の研修などで幅広く導入されている。十勝では、2月に帯広刑務所で受刑者に対し初めて実施された。今回の講座は、出所者の積極的な雇用を行う運送業「ドリームジャパン北海道」



「心のスポンジづくり」について語る原田塾長

(帯広、長原和宣代表)の主催で、民間向けは道内で初めて。2日に行われ、保護司やハローワークなどの関係者15人が耳を傾けた。講座は2部構成で「生きづらさの正体を探る」「新たな思考回路を作る」と題して行われた。

原田塾長は「日本は『大人になつたら自己責任』というバイアス(偏り)がある」とし、誰にも相談できずに生きづらさだけが積み重なっていくと指摘。また、日本人の約8割が不安遺伝子を持つといい「課題にぶつかると、正解を探す『思考の癖』がある。正解があると誤解したまま大人になると、世の中で正解とされている人生を歩めない自分を責めたり、他人と触れ合うのが怖くなったりする」と語った。

その上で、思考パターン

を変えするために、考え抜く脳を育てるのが大事と強調。生きづらさを感じる人の「変わりたい」という気持ちを応援するため「考える仕組みを変え、自分の感覚のズレを認識する。直感で感じたことを理論的に捉えて、よりよい方法を探し出す力を導き出す」教育指導方法を紹介した。

主催した長原代表は「十勝からできることを、これからも取り組んでいきたい」と話した。(北崎諒子)